

# デフリンピック遠征日記

日本ろう者テニス協会コーチ内藤が、遠征先であった出来事を書いていきます。

日本ろう者テニス協会の公式文書は

尾形さんが書いていきますので、肩苦しくない適当な文章になる事をご了承下さい。

8月2日(土) Part 11 試合偵察

今日は、テニスダブルス決勝の試合が行われるので見に行きました。

金メダルを目指すにあたり、どのレベルまで我々が進まなければいけないのか？確認です。

さらに、選手には海外の選手と練習を行うように指示を出し行動させました。

理由は後ほどお知らせします。

女子ダブルス決勝

HO-HO(TPE)

14

66

CAPMAN-HANGSTEFAR (USA)

完全にアメリカのペースでした。

クロスのラリーの質ではHO姉妹の妹の方は大丈夫なのですが、姉の方は太刀打ちできずロブで逃げざるをえませんでした。しかも、妹のラリーでは常に先手でポーチに出たり揺さぶりをかけたりと動きの質が良かったです。

アメリカペアはドイツのチームを破っての決勝進出。

あのalbrechtとのラリーを制しての決勝と言うことです。半面のストロークには絶対の自信があるのだと思います。そしてあのポーチ……。2人共にある程度のレベルを超えた素晴らしい質が出ていました。

女子ダブルス3位決定戦

ALBRECHT-FLECKENSTEIN(GER)

67

26

FLETCHER-BROOKES(GBR)

ドイツはalbrechtのストロークとfleckensteinのボレーと一番ポイントを取れるパターンを持っています。

Brookesのストロークとfletcherの頭脳とボレーで対抗をしますが自力で勝るドイツの勝ち。

